

「茨城県立緑岡高等学校主催 英語による科学研究発表会」

12 月 14 日に茨城県水戸市の茨城大学で「英語による科学研究発表会」が行われました。全国の SSH 指定校が集まり、普段研究しているテーマについて英語で発表を行いました。本校からは「美しく舞う紙吹雪の研究」「童話からみる求められる女性像の変遷」「俵万智の短歌が多くの支持を得る理由」「エスカレーター 1 列乗りの防止」「防災教育におけるかるたの提案—かるたで遊んで台風教育」というテーマを 5 つのグループが発表しました。

参加者は事前に発表の練習を行い、先生方から改善点などのアドバイスをいただき、それをもとに良い発表にしようとする様子が見られました。その成果で、本番では練習とは見違えるほど上手に発表していました。英語の発表では、発音が難しかったり、伝えたいことを上手く伝えられなかったりして苦戦したが、各々が良い発表になるように工夫していました。英語で質問されると、答えることに悪戦苦闘しましたが、英語で自分たちの研究を伝えようと努力していました。

他校の研究テーマは多岐に渡り、非常に興味深いものでした。英語が聞き取れず、理解できなかったこともありましたが、意欲的に参加していました。また、他校と英語で交流することで英語を学ぶことの重要性に気付くことができました。この経験を日々の生活に生かし、さらなる英語力の向上に繋げていきたいです。

【参加者の声】

どの先生方も鋭い指摘をしてくださり、興味深いと言ってもらえたので、自分たちの研究に少し自信が付きました。また、他校の方ともたくさん意見交換をすることができました。自分と同じような研究をしたい人とお話できたり、部活で培った知識や 1 年生のときの夏休みの家庭科の研究で得た知識が繋がったりする発表もあって、満足感でいっぱいでした。(2 年)

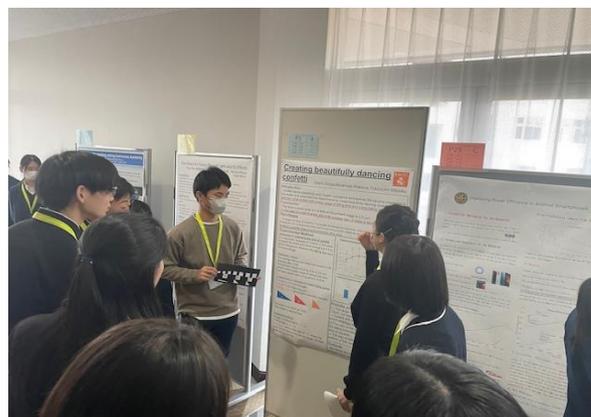
英語での発表は初めてで開始前はとても不安だったが、相手に伝えようとする思いを大切にしっかりと発表することができた。教授と思わしき人物からの英語での鋭い質問に狼狽することもあったが、慣れない英語で頑張って回答した。関東の他校の生徒とも質疑応答を通してフレンドリーな雰囲気の中、交流することができ、貴重な機会となった。(2 年)

全て英語の発表に準備段階では戸惑っていたが、実際やってみると、聴衆の反応や質問から、より良い言葉選びに気付くことが出来て、とても充実した体験になった。(2 年)

【参加者の声】

「科学発表会」であったのに対し私たちの班は国語のテーマの発表をしていたので、生徒よりも教授や先生方が多く見てくださった。多くの方に質問していただいたので、別の視点からの考え方などが加わり研究を発展させられそうな学びがあった。(2年)

英語で自分たちの研究内容を伝えるのはとても難しく感じた。ただ原稿を暗記するのではなく、自分たちが研究をより一層理解し、どこを強調したいのかを考えて説明することが大切だった。また、外部の様々な人から、新たな視点の質問やアドバイスをいただいた。今後の研究にそれらを生かしていくと共に、英語で他者に伝える能力を身につけていきたい。(2年)



《編集後記》

今回発表者の先輩方と一緒に水戸に行かせていただいて、1年生ながらに多くのことを学びました。英語での発表を聞くことは難しかったですが、とても良い経験になり改めて英語を勉強することの大切さを感じました。これからの学習に生かしていきたいです。(1年)

